



日本システム企画(東京都渋谷区、熊野活行社長、03・3377・1106)は、NMR(核磁気共鳴)技術を使った給水管内の赤サビ防止の論文を発表した。このほど

生装置「NMRパイプテクター」を使用した場合の空調冷温水配管内の赤サビから黒サビへの変化量の測定値。配管の一部を切除してサビの割合を調べたところ、黒サビの割

給水管内の赤サビ NMR技術で防止

大阪で開かれた第13回アジア太平洋防錆国際会議で行ったもの。「正式な論文として効果を実証できた例はまだなく、これにより効果が学術的にも証明されることになる」

(熊野社長)という。論文の内容は同社の配管更

合が12カ月で2・2%から72・9%に増加した。黒サビは水に溶けにくく、配管の強度を損なわないため、防錆と更生が行われたことを示してい

国際会議で論文発表

日本システム企画

る。

また、黒サビの増加要因がNMR技術によるという実証データも発表した。

日本国内の腐食による給水管の更新、維持コストは5兆3000億円といわれている。既存の配管更生技術では工事費用が高く、断水が必要などの問題点があり、これに替わる技術が求められている。

同社では今回の論文発表を契機に周知を図るほか、研究に取り組み、技術を磨き上げる考え。

「効果を学術的に証明」